様式第１号（第５条関係）

行政提案型協働事業概要書

事業 （テーマ）	**学びの下支えによる、子どもの意見表明支援に向けた新しい実践** ～子どもの視点に立った貧困・ケアラー支援、いじめ防止等への対話的アプローチ～

提案した理由や背景（市民ニーズ）、課題等

酒田市の出生数が500人を割り込む中、本市の未来を担う子どもの貧困、ヤングケアラーといった新たな課題への対応が迫られている(総合計画に記載)。ヤングケアラー実態調査では、子ども本人の声として「話を聞いてほしい」「勉強を教えてほしい」が上位にあがっている。

子どもの抱える課題が複合・複雑化する中で、その解決には、行政だけでなく多様な団体が協働し、取り組むことが重要となっている。

※今回の提案は、担当指導主事及びスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）が全校訪問する中で、貧困やケアラーといった困難を抱えていると思われる子どもに、学びの下支えをしてほしい（学びに向かう根の力を大切に伸ばしたい）という声が上がったことを受けて、行政から事業募集をするものです。

事業内容（対象等）

上記課題を解決する取り組みについて、公益活動団体と協働しながら、検討を行う。行政のネットワークを活かし、また、公益大等と連携することで相乗効果が一層高まる方策を検討する。

【令和５年度】モデル校の選定、事業の企画、職員研修、
試験的実施（対話プログラム及び校内居場所）

【令和６年度】本格実施

・対話プログラム（RJサークル）や校内居場所を通して、こどもの意見表明（対話文化の醸成）を図る。

・地域（ＰＴＡ、民生委員）を含めた対話プログラムの実施

【令和７年度】対話文化の定着。活動展開の検討。

目的・目標（数値目標等あれば）

【目的】

・子どもたちが安心して意見表明できるようになることを目指す（対話文化の醸成）。

・結果として、学校が子どもたちにとって安心安全な居場所となる。

【数値目標】

・自分にはよいところがあると思っている子どもの割合（総合計画から準用）

・相互に対話を行えている児童生徒の割合（検討中）

事業期間	令和６年４月１日～令和７年３月３１日

<table>
<tr><td>見込まれる予算額</td><td colspan="4">５００，０００円</td></tr>
<tr><td>総合計画上の位置づけ</td><td colspan="4">１－２大学・高校とともにつくる「ひと」と「まち」　東北公益文科大学等との連携
１－３公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち　「いのち」の大切さを学ぶ教育の推進
４－２未来を担う子どもの笑顔があふれるまち　子どもの権利の擁護</td></tr>
<tr><td>行政の役割</td><td>・企画立案、事業運営の補助
・ニーズの把握（モデル校の把握）
・学校との連携
・プロジェクトの広報</td><td>団体の役割</td><td colspan="2">・企画立案、事業運営
・プロジェクトの広報</td></tr>
<tr><td colspan="5">協働により期待できる効果</td></tr>
<tr><td colspan="5">複数の主体が協働することで、より質の高い企画・実践が行える。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>担当課・係名</td><td colspan="3">学校教育課</td></tr>
<tr><td>（役職）担当者</td><td>主査　杉山　義法</td><td>連絡先</td><td>内線５１０９
外線（26）5776</td></tr>
</table>